全国大学医学部における
ワークライフバランスの取り組み
～小児科学会主催アンケート調査より～

日本小児科学会男女共同参画推進委員会
（旧日本小児科学会ワークライフバランス改善
ワーキンググループ）
福與　なおみ
東北大学　医学部　小児科

背景

医師のワークライフバランスを考えることは、医師として充実した生活を送ることに加え、離職や休職、医師偏在の防止にもつながる重要な課題である。

ワークライフバランスに触れる機会として、若手医師にとってはインターネットが、医学部生においては講義が動機付けになると考えられる。

また、ホームページや講義でワークライフバランスをテーマとして取り上げることは、医師自身が医師としての働き方を見つけるきっかけとなりえる。

目的

大学医学部における講義とホームページにおいて、ワークライフバランスに関する記載の有無の実態を明らかにする。

方法

全国の大学医学部80校に、郵送にてアンケートを行った。
返信には、FAXを用いた。

調査期間は、平成25年12月～平成26年1月であった。

なお、ワークライフバランスとは、子育て支援などの女性医師支援テーマも含むことを、アンケートに明記した。

アンケート内容

１）ワークライフバランスをテーマに取り上げた学生講義の有無

２）講義をしている場合の、対象学年と講義時間数

３）大学医学部ホームページにおける、ワークライフバランスをテーマに取り上げた内容の記載の有無

４）ホームページ上でワークライフバランスに関する内容の記載がない場合、今後記載を予定しているかどうか

結果1
～回答率～

回答率 58%(47/80大学)

回答者の内訳

16名/47名

医学部教官

学部長2名

教授8名(小児科6名、医学教育学2名)

教官6名(小児科5,男女共同参画推進センター1名）

31名/47名

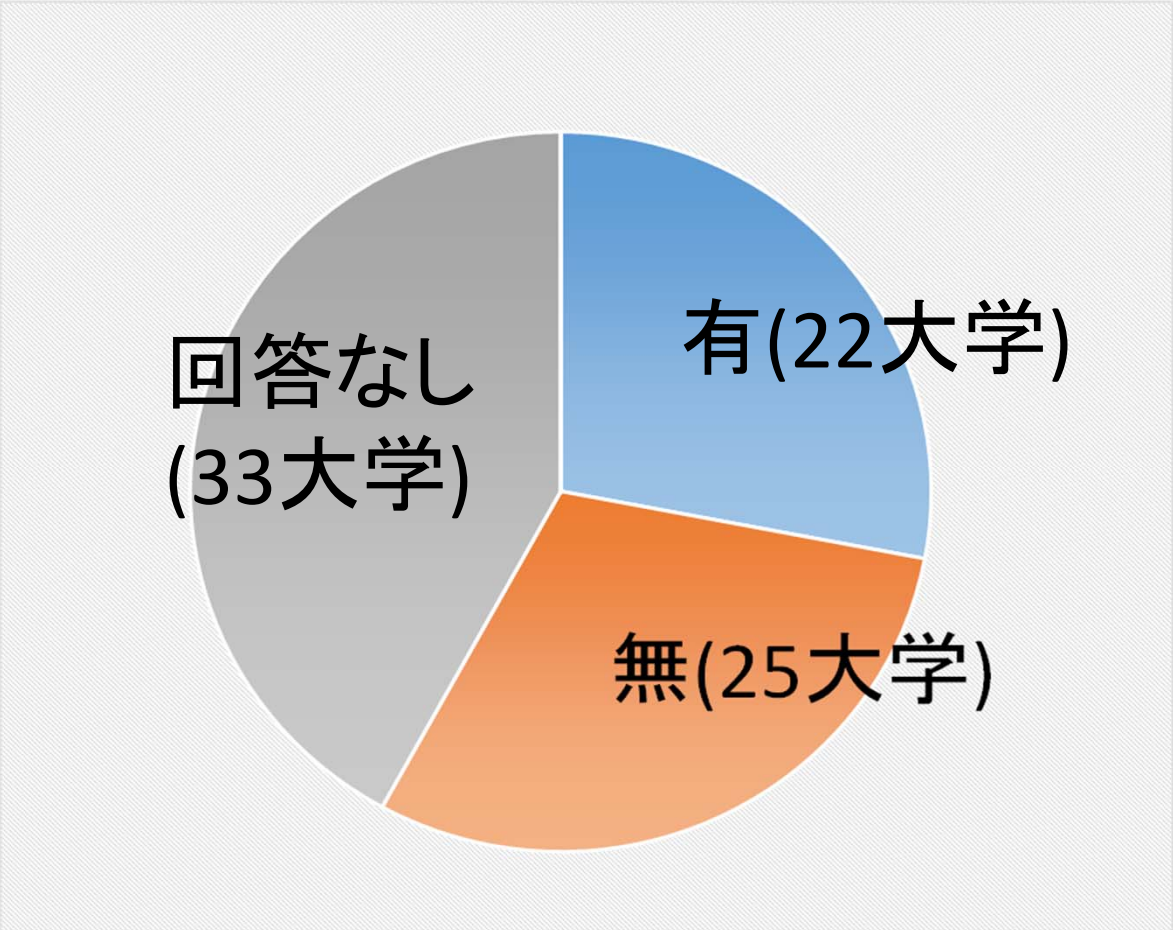
医学部学務課または総務課の事務職員

日本医師会主催全国医学部アンケート

回収数 65大学（回収率81.25%）（日本医師会雑誌 2014年 高橋克子ら）

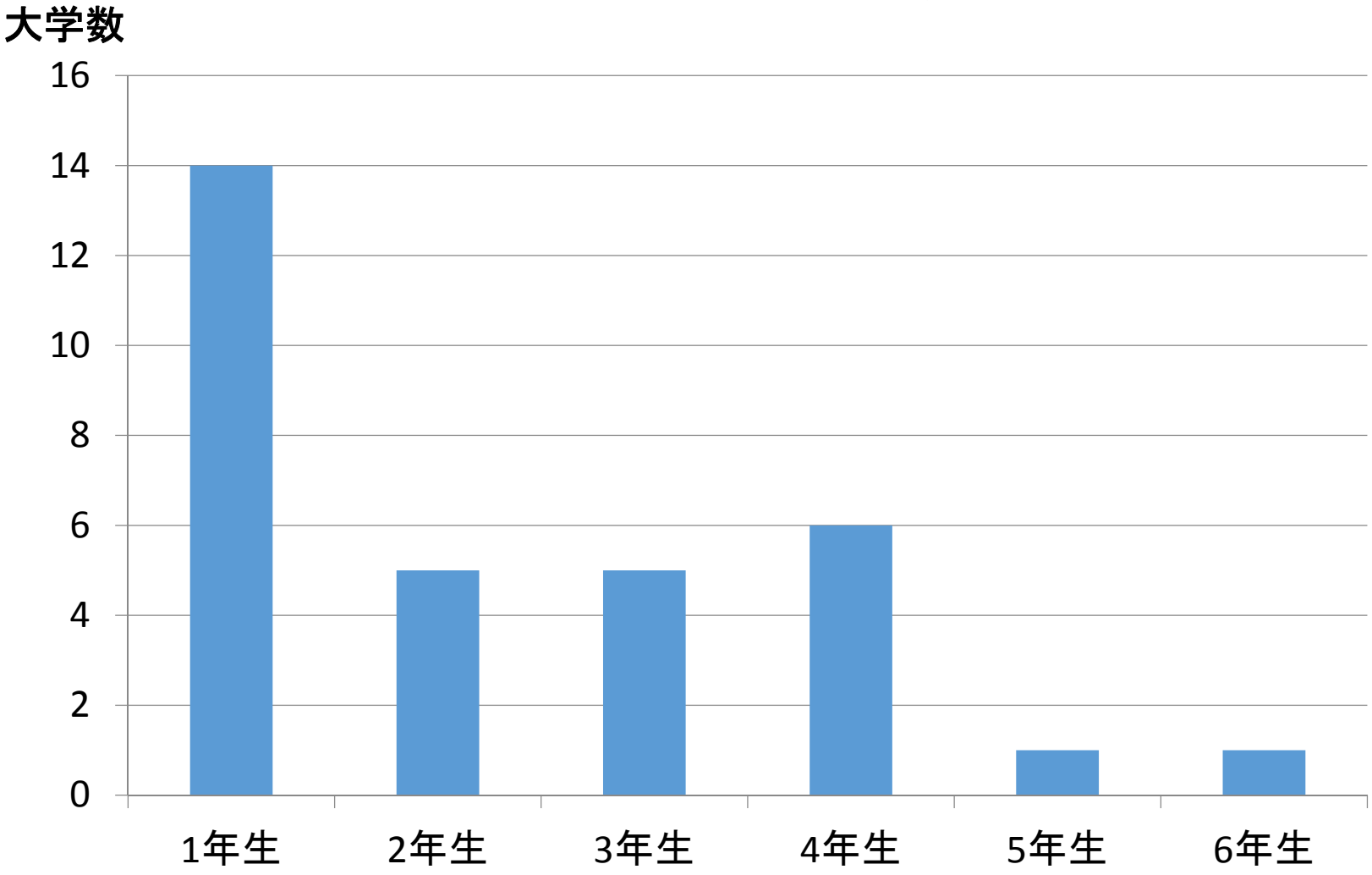
結果２

～ワークライフバランスをテーマに取り上げた学生講義の有無～



n＝80

結果３
～講義を行う時期～



n＝22

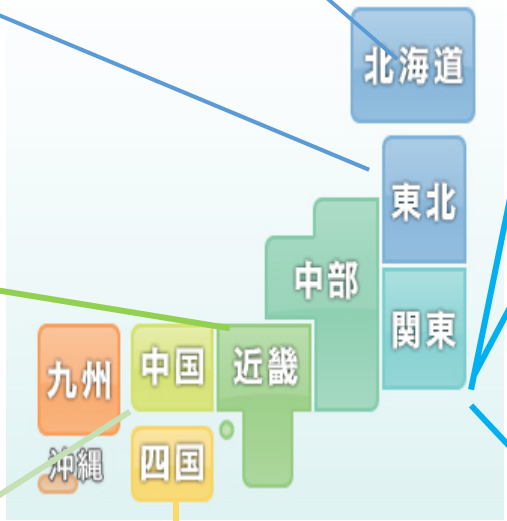
結果4
～講義を行う時期と内容の例～

A大学（男：女＝2．2：1）
1年生：必修　90分間
3年生：必修400分間
「地域医療とコミュニケーション」

A大学（男：女＝2．1：1）
3年生：必修　360分間
「ワークライフバランス」

J大学（男：女＝2．2：1）
2年生：必修　90分間
「卒業生からのメッセージ」
「医師のワークライフバランス」

K大学（男：女＝3：1）
1年生：必修
男女共同参画に関して
＊5年生：
　小児科病院実習中の
「病児保育実習」



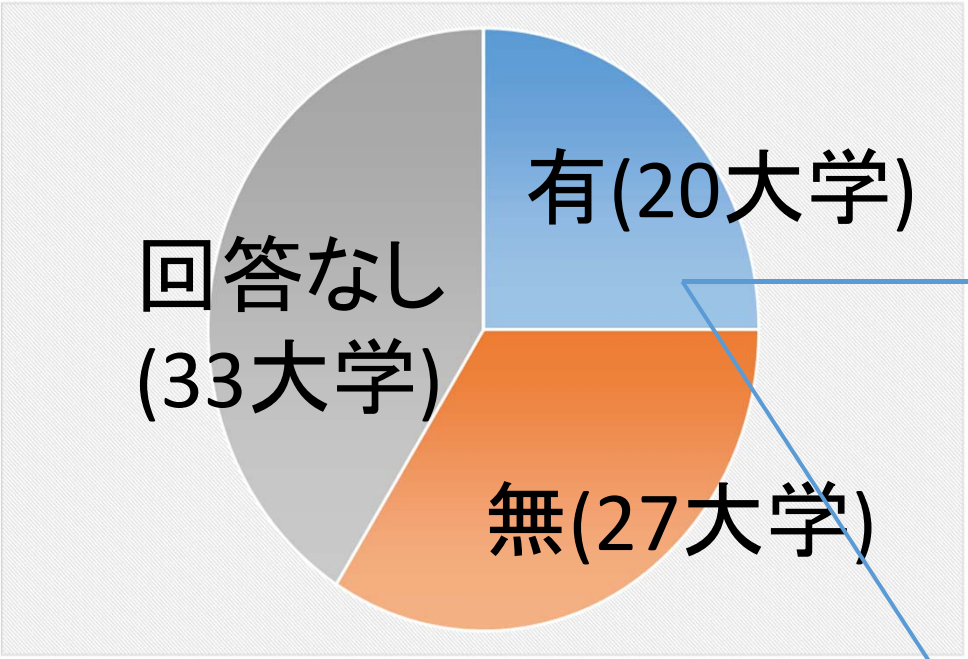
T大学（男：女＝2．3：1）
1年生：必修　80分間
「キャリア形成およびメンタルヘルス」
5年生：必修　60分間
「ワークライフバランス」

Y大学
（男子：女子＝1．5：1）
2年生：必修　90分間
「労働環境」

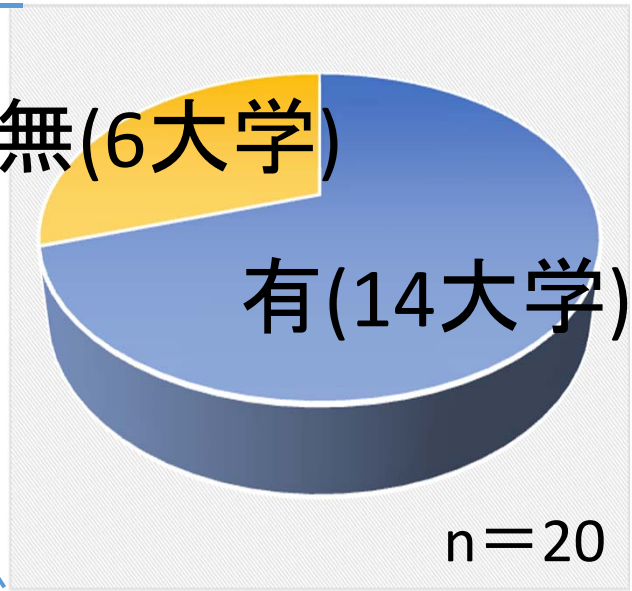
E大学（男：女＝1．5：1）
1年生：必修　180分間
ワークライフバランスに関して

T大学（男：女＝1．8：1）
1年、3年生：
それぞれ必修　70分間
1～4年生：選択　700分間
「男女共同参画と医療」

結果５
～ホームページ上のワークライフバランスの内容の記載の有無～

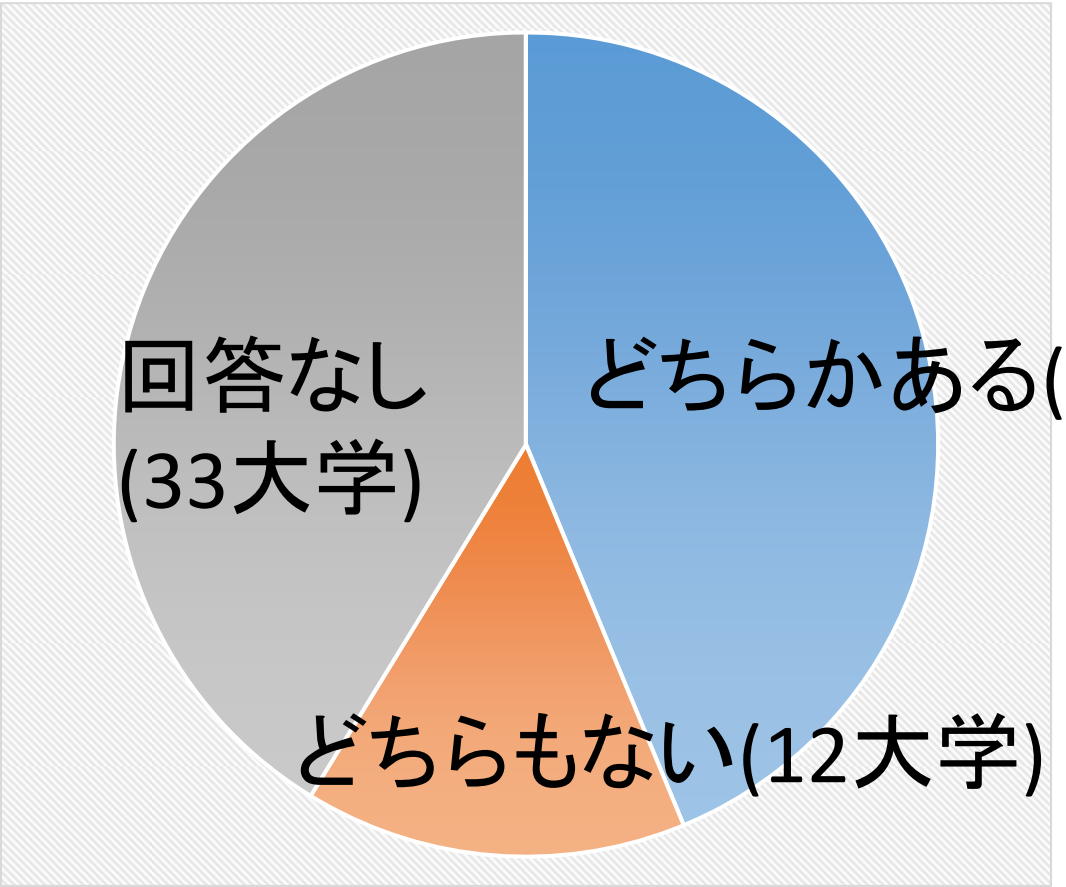


ワークライフバランスに
関する学生講義の有無



結果６

～ワークライフバランスに関する講義とホームページどちらもない大学～



n＝80

結果のまとめと考察1

大学医学部でのワークライフバランスに関する学生講義、ホームページ上での記載は、それぞれどちらも半数以下であることが明らかになった。

↓

日々の診療や研究で忙しくなる医師になる前の、医学生時代からのワークライフバランスの啓蒙が必要だという考えは、本邦では未だ認識されていないことが推測される。

結果のまとめと考察2

講義を施行している大学の中には、学年ごとに講義内容を変えるなどの積極的な取り組みを行っている大学もある。

↓

大学間でのワークライフバランスに対する意識の差が大きいといえる。

結果のまとめと考察3

大学医学部として女性医師支援または男女共同参画事業を行っているほとんどの大学では、ワークライフバランスに関する講義やホームページ上の記載があった。

↓

大学全体としての意識改革が、学生や研修医への意識改革につながることが期待される。

Take Home Message

医師のワークライフバランスを改善するには、マンパワーの充足が前提となる。そのためには、医学生時代からのワークライフバランスの啓蒙、支援体制の周知が必要である。

しかし、本邦では半数以下の大学でのみしか実施されていない。医師になる志をもった医学部入学時から継続したワークライフバランスに関する講義の充実をはかる必要性がある。

個人のライフイベントに際して、多様性が求められる支援のありかたに対する理解を深めることのみならず、ライフイベントを乗り越えつつ医師として働きつづけるモチベーションを維持することに役立つと考えられる。

謝辞

お忙しい中、アンケートにご回答
くださった全国の大学の大学医学部
教授、教官の先生、事務の方、
どうもありがとうございました。